布田小地区ハッピータウン協議会

Happy Times

2023年8月　第22号
広報委員会　年2回発行
地域内 計4300部 戸配

問合先：調布市協働推進課
042-481-7036

普通救急救命講習会

2月12日（日）
第4回目を開催
２２名が受講

指導を受ける受講者の皆さん

熱中症の心配もない、まだ真冬の寒さが続く2月中旬、一日だけ春のような温度に上がった12日の日曜日、こころの健康支援センターで当地区協主催の救急救命講習会を開催した。2013年に第一回の講習会を開催して以来、2016年2020年と受講者に渡される「救命技能認定証」の有効期限3年間が切れないように実施して来て、今回は4回目の講習会となる。

認定証に有効期限を設けているのは、現場での救命措置の実績や技術の進歩・環境の変化を救命活動に反映するのが主な目的である

【二面に続く】

発足

布田六丁目・染地一丁目の下布田遺跡
縄文ロマンを楽しむ会
地域の愛着のある公園をめざして

会の発足式に参加した皆さん

7月22日（土）午後1時より郷土博物館分室（布田6-61）で縄文ロマンを楽しむ会の発足式が行われました。この会は調布市の下布田遺跡整備計画に呼応して、周辺の近隣地域住民が積極的な情報発信を行い、地域の愛着のある施設として関わっていこうという有志が集まり結成。発起人代表の坂下幸さんは、「かつて自分の子どもたちは、ここでキャンプをやったり多くのことを学ばせてもらった。こんな手つかずの原林の残る場所は身近にない。これから大きな整備が始まり、地域の中心的な公園になっていってほしいので、今から大きな期待をしています。」と話に熱が入っています。

当日の会場には関心の高い地域の皆さんが10名ほど集まり、これからの活動についての質問など活発な意見交換を行いました。長友調布市長からの祝電のサプライズもあり、調布市のこの会への期待の高さもうかがえます。

発足式終了後は、遺跡跡で8月末まで行われているヤギのエコ除草の様子も見学しました。

8月22日（火）同場所で調布市が「旧暦星空観望会」を開催するのにも協力予定。イベント詳細は当地区協のウェブサイトにも8月上旬にアップしますのでご参照ください。

左の青が「アトリちゃん」、右の赤が「ユキちゃん」、フェンス越しに名前で呼んであげると、声をあげて応えてくれます！ヤギさん優しい

ハッピーうさこ キャラクター紹介

当地区協が発足した当時に、布田小学校で飼っていたうさぎをイメージシンボルにしました。

◇「十二年目」◇

当地区協が発足した12年前の当初は、地域の中の情報交換の場として機能するのが会の目的でした。

しかし、設立の年に東日本大震災がおき、また新型コロナウィウルの蔓延など社会情勢がどんどん変化するに呼応して、会の活動も自主的な事業展開型に変化してきました。

避難所開設と中心とした防災訓練、幼児児童向けの子ども食堂および簡易型ランチパックの配布、シニア世代対象のフレイル予防体操「10の筋力トレーニング」など活動が広がってきました。

そして今回、縄文ロマンを楽しむ会を発足させたのは、若い世代が地域に愛着を感じ、多くの思い出や誇りを感じてもらいながらこれからの社会を担ってほしいからです。当地区協エリアのど真ん中に位置する日本国の縄文時代史跡。夢と可能性、ロマンが詰まっています。

皆さんが愛するこの地域の願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会
会長　依田 耕児

ドレミファ介護 参加者募集

地域包括支援センターときわぎ国領の職員が事例を用いながら介護保険や介護サービスについてお話します。どなたでも参加可能で、毎月１回同じ内容で行います。介護のことに関心のある方、不安がある方、今まさに困っている方、ぜひご参加ください。（参加費無料）

毎月第４水曜日
19:00 ～ 20:00

【内容】地域包括支援センターの役割と介護保険・介護サービスについて
【場所】オンライン（ZOOM を使用）
【対象】テーマに関心がありパソコン・スマホで ZOOM が行える環境にある方
【申込】下記 QR コードから申込フォームにアクセスして情報入力をお願いいたします。ZOOM の URL をご返信いたします。

10 筋

10の筋力トレーニング

ハッピータウン主催の 10 筋トレーニングは月に２回開催です。（第二・第四金曜日）８月４日・２５日、９月８日・２２日、１０月以降は地区協の WEB サイトをご参照ください。10 時～ 11 時半、参加申込不要、直接会場（布田南部自治会館）に来てください。

10 筋を紹介した動画もありますので覗いてみてください。

漢検サポーター

地域学校協働本部

８月２３日（水）に布田小にて第４回日本語漢字検定が行われます。この広報誌で募集した漢検サポーターのご協力をいただいて 50 余名の布田小児童が受検予定。お手伝いいただける方を募集しています。詳細は地学協 山本（090-9140-1891）

第３回漢検（２月 18 日）の受検風景

新運営委員さん（敬称略）

①. 趣味　②. 好きなことば　③. ひとこと PR

横山 公一
よこやま きみかず
～布田小 校長～
①: さすらい
②: 色即是空
空即是色
③: 今年調和小学校から布田小に着任しました、丙午（ひのえうま・S42年生）の横山です。よろしく。

長谷川 みお
はせがわ みお
～布田小 PTA 会長～
①: 読書 ②; 挑戦
③: 福岡市から調布に来て３年が経ちましたが、学校や地域の活動を通じてもっといろんなことを知っていきたいと思います。

稲 靖彦
いね やすひこ
～地域ボランティア有志～
①: ハイキングと写真　②:「一歩一歩前へ」「病気になっても病人にはなりたくない」（田部井淳子）③: 人見知りですが人と接するのが大好きです。常に前向き。

池田 桃代
いけだ ももよ
～こころの健康支援センター～
①: 飲食店めぐり
②: 失敗は成功のもと
③: センターでの主な仕事は、こころの病や発達障がいを抱える方やご家族の相談やサポートをしています。布田小地区の皆さんから地域のことをいろいろと教えていただき、何かお役に立ちたいと思います。

徳冨 善子
とくとみ よしこ
～染地かもめ会 会長～
①: スポーツ観戦
②: 日日是好日
③: 長年住んでいながら地域の方々がどんな活動をされているのかよく知りませんでした。これからすこしづつ学ばせていただきたいと思っています。

運営委員募集中！

★年６回の運営委員会
★防災教育の日 避難所訓練
★地域の安全安心活動
お近くの上記運営委員にお尋ねください

布田小地区ハッピータウン協議会
ホームページ
https://happy-usako.jp
スマホ対応で見やすくなりました

はっぴーなきずな

「こんにちは、今日は〇〇ですね」とあたりさわりのない天気の話をしていましたが、異常気象が当たり前のいまでは、その次に適切なコメントが必要なようで何とも面倒になってきたように感じる。＜今日この頃です＞（代田詠造）

調布市公立小学校親睦ソフトボール大会の予選を布田小で開催しました。保護者、先生の協力で無事初日終了。布田小は２連勝で現在トップ。暑い中、白球を追いかけ充実した１日でした。次回も頑張りましょう！（松岡和也）

普通救命講習会

と説明されたが、受講者の立場からすると救命活動が必要な場面に実際に遭遇することはまれと言って過言ではないので、3年も経つと記憶も薄れてくるし、AEDの扱い方もリフレッシュしておかないと、いざという時にはなかなか動けないだろうというのが実感だ。今回の講習会には当地区の住民の方々が22名参加され、内6名の方が初めての参加、16名は以前に参加されたことがあり、言ってみれば記憶リフレッシュを目的とされる方々であった。

講習を担当されるのは東京消防庁から委託を受けた、東京防災救急協会所属の三人の方々。これは今までの講習会と同じだが、講習内容は毎回徐々に変わって来て、今回は救急救命を実体験してもらうため、ダミーを使った体験学習に重点が置かれていた。そのため以前の講習会では3体しかなかったダミー人形も今回は8体用意され、受講者は全員3回の心肺蘇生とAEDのトレーニングを受けた。中でも胸骨圧迫による心肺蘇生は、胸の真ん中を1分間に100～120回のテンポで5センチ押し下げる必要があるので、当初女性の受講者には肉体的にかなりきつかったようだ。しかし、それも講師のアドバイスを受けて、ダミーの真上から両肘をまっすぐ伸ばして体重をかけると、さほど筋力を使わずに出来ることが分かった。これも一度体験しておくのと、その場で初めてやるのとでは大きな違いがあることの一つだろう。

ひとりひとりの真剣さが伝わる会場

約3時間弱の講習会も終わりに近づき、#7119救急相談センターの紹介があった。コロナ禍のニュースなどでも紹介されることが増えたので、ご存知の方も多いと思うが、救急車を呼ぶべきか迷った時の相談窓口だ。もう一つ紹介があったのは、民間救急コールセンター（0570-039-099）。こちらは緊急性のない通院や受診、入退院・転院搬送に応じる民間救急事業者の案内をしてくれるとのことだ。コロナに罹ってしまったが重症ではない、でも病院まで歩くのはシンドイ、どうしよう、というような時に適切なのかもしれない。

受講された友人グループのご婦人方が話されていたこと、AEDも胸骨圧迫もよほどのことでもない限り、第三者に対して実際にやるのは怖くてできないと思う。でも今日教わったことは、自分が救護される側になった時に、救護してくれる人の邪魔しないよう、日頃から考えておく材料としてきっと役立つ。なるほど、本来の講習会の目的から多少ずれるかも知れないが、社会の救命救急についての知識レベルを高める方向には沿っているし、講師が言われた「無理してまではやらない」とはこういうこと、と妙に納得した講習会であった。

（文・藤田秀雄）

仮設トイレの設置訓練

4月22日（土）

布田小体育館前に避難所用下水設備が昨年完成して初めての仮設簡易トイレの設営訓練が調布市と地区協との共同で行われました。設置後に実際に水を流して排水の様子も確認できました。

仮設簡易トイレの設置を行う調布市の皆さん

布田小運動会でテントが活躍

昨年同様に、晴天の運動会（5月27日）でテントが大活躍しました。熱中症対策として万全なテント設営は、その撤収も含めて、布田小おやじネットの皆さんの協力がありました。運動会プログラムも、大変テンポのいい進行になっていて、子どもたちは集中して競技や演技に臨んでいました。

運動場全面に建てられたテント

テント撤収後の布田小教員とおやじネットの皆さん

多摩川土手に上がるスロープが完成

布田小の正門前を通る道を多摩川に向かって行くと、土手にぶつかりますが、地元の自治会、桜丘睦会（門傅良男会長）が2006年より要望をあげてきました、土手へのスロープが完成しました。徒歩、自転車、車いすともに安全に行き来できるようになり、多摩川がますます身近になりました。

土手の上部分、合流部が大変広い

土手の下部分、緩やかで安全な傾斜

介護や認知症のことならいつでもご相談ください！

地域の活躍びと

今号に登場いただく活躍人は、当地区担当の地域包括支援センター「ときわぎ国領」で、見守りネットワーク「みまもっと」を主に担当されている小嶋泰之さん、社会福祉士と介護支援専門員（ケアマネ）の資格を保有される中堅のセンター員だ。調布市の中でも高齢者世帯の割合が高いこの地区協地域にとっては、大いに活躍して頂きたい方と期待に胸膨らませて、国領七丁目セブンイレブン裏のときわぎ国領にお邪魔した。

事務所に着いた時に出迎えてくれたのは小嶋さん本人、他には誰もおられず「みんな訪問先に出かけています」とのこと。確かに、小嶋さんのお話を伺っていた約一時間の間に、次々と訪問を終えたセンター員の方々が「ただいま～」と戻って来られた。そして、一休みする間もなく電話を掛けたり打合せをされたり、高齢者対応が仕事の地域包括支援センターがこんなに活気に溢れて明るいイメージだとは思っていなかったので、少し驚くと同時になぜなのだろうと興味が湧いた。

堅苦しい説明になってしまうが、地域包括支援センターは2006年から市町村が主体となって設置が始まった機関、高齢者やその家族が安心して暮らせるよう、福祉や介護に関する総合的な相談・支援・調整を提供するのが主な役割だ。そのため個々のセンターには必ず三種類の資格を持った人材が配置されている必要がある。資格の一つは、主に介護予防のケアプランの作成などに携わる保健師で、ときわぎ国領では大関朱音さんが、二つ目はケアマネのボスと言われる主任介護支援専門員で、細谷理恵センター長がその資格をお持ちだ。三つ目の資格は社会福祉士で、ときわぎ国領では小嶋さんを含む多くのセンター員がその資格を持っておられ、成年後見制度を活用した高齢者の権利擁護などを主な業務とされている。

ときわぎ国領の担当エリア

小嶋 泰之さん
（こじま　やすゆき）

Yasuyuki Kojima
～ 地域包括支援センター ～
「ときわぎ国領」センター員

小嶋さんご自身は、たまたま大学の専攻に現代福祉学部を選んでしまったと謙遜されるが、夜勤が多かったお父様に代わって祖父母に育てられたジジババ子の頃から、常に高齢者が周囲にいる環境で過ごされて、人を支える仕事・人に感謝される仕事に進もうという気持ちが、知らず知らずの内に醸成されていったのだろう。ときわぎ国領に小嶋さんが着任されたのは2017年のこと。同じ年に各種の福祉サービス提供（高齢者に限らず）や改善に取り組む調布市社会福祉協議会に中村竜さんと北島正也さんが着任されたことは、まさに天の配剤と言うべきか、小嶋さんによれば「波長が同じ」おかげで協調も協働もスムーズだそうだ。ついでに触れておくと、このお三方はそろって当地区協の運営委員も務めて頂いており、布田小地区の各種のイベントなどに積極的なご支援を頂いている。

一昔前は福祉の仕事はいわゆる3Kのイメージが付いて回ったものだが、小嶋さんにしてみれば「いつでも正しいと言えるような回答が無くて、ケースごとに問題を整理して解いていく」ことに面白さとやりがいを感じるとのこと。事務所で感じた明るい活気はセンター員の皆さんが同じように思われ、高いモティベーションを持って仕事に取り組まれているからなのだろう。

小嶋さんが担当されている見守りネットワーク「みまもっと」には、年間130件を越える通報・相談が寄せられるそうだ。「それを負担に思うか、新しいチャンスと考えるかで、自分の気持ちも地域の方々への対応も全く違って来ますよね」と話される小嶋さんが頼もしい。「毎日皆さんの地域に出かけて行っています。ときわぎ国領に気兼ねなく連絡して欲しいです。」

（文・藤田秀雄）

地域包括支援センター
「ときわぎ国領」
調布市国領町7－32－2
050-5540-0860
houkatsu@tokiwagi.org